

1 事業名 平成29年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業  
通学合宿「テンちゃん一家の一週間」

2 趣 旨

日常の家庭生活とは切り離れた環境で、異なる学校・学年同士での共同生活や学習活動を行い、人と関わる力や集団生活のマナー、基本的な生活習慣の育成を図るとともに、中1ギャップ解消を目指す。

3 期 日 平成29年11月12日（日）～11月18日（土）

4 参加者 滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢東小学校 5～6年生 33名  
※参加人数の内訳

学校名	参加人数	5年	6年	男子	女子
滝沢第二小	23名	10名	13名	16名	7名
滝沢東小	10名	5名	5名	5名	5名

5 連携・協力 滝沢市教育委員会、滝沢市立滝沢第二小学校、滝沢市立滝沢東小学校  
滝沢市立滝沢第二中学校

6 内 容

(1) 日 程

日	時刻	14:30	14:40	15:00	15:30	15:45	16:00	17:30	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30			
11月12日	日	※バス送迎希望者	滝沢東小学校発	滝沢第二小学校発	受付	はじめの会	オリエンテーション	アイスブレイク(フットラリー)	ベッドメイク 荷物整理等	夕食	一週間のめあてづくり	ふりかえり活動	入浴	就寝準備 就寝			
11月13日 滝沢第二小児童	月	6:15	6:45	7:30	9:00	12:00	13:00	16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
11月13日 滝沢東小児童		起床	健康観察 朝食	清掃	職場体験 (施設整備)	昼食	職場体験 (施設整備) 学習活動	体づくり	学習時間	休憩	夕食	学習・交流 【7+メンチャープログラム】	ふりかえり活動	入浴	就寝準備 就寝		
				7:30	通学中			16:00頃	学校発 バス移動								
11月14日	火	6:15	6:45	7:30	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
		起床	健康観察 朝食	通学 発バス	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
				7:30	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
11月15日	水	6:15	6:45	7:30	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
		起床	健康観察 朝食	通学 発バス	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
				7:30	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
11月16日 滝沢第二小児童	木	6:15	6:45	7:30	通学中			11:20	12:00	13:00	15:00	17:00	17:45	18:30	20:30	21:10	21:30
11月16日 滝沢東小児童		起床	健康観察 朝食	通学 バス 出発	学校発 バス移動	昼食	洗濯・清掃	学習時間及び 自由時間	中学校の 先生のお話と学習時間	夕食	ふりかえり活動 決意発表準備		入浴	就寝準備 就寝			
				7:30	通学中			15:00頃	学校発 バス移動 到着後:学習								
11月17日	金	6:15	6:45	7:30	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
		起床	健康観察 朝食	通学 発バス	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
				7:30	通学中			16:00頃	17:00	18:00	18:15	19:00	20:00	20:30	21:10	21:30	
11月18日	土	6:15	6:45	7:30	7:50	※日程や時間に変更になる場合は、連絡するのでそれに合わせて動きましょう。											
		起床	朝のつどい 朝食	通学 発バス	解散												

(2) 指導者

- ・国立岩手山青少年交流の家職員・法人ボランティア 【生活・学習指導全般、交流の時間の指導】
- ・滝沢第二中学校 教諭 佐々木信幸 氏 【中学校の生活についての講義】

### (3) 企画のポイント

滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢東小学校の2校の児童は、中学生になると滝沢市立第二中学校と一緒に学校生活を送るようになる。そうした中学校に向けた交流や仲間作りを意識しながら、交流の家を拠点として一週間の共同生活を送る。今年度も昨年度と同様に5・6年生の高学年に絞って参加者を募った。実施にあたっては、2校をそれぞれ訪問し、児童の様子や宿題の内容、各学校との日程調整等を行い、登校・下校の協力を得ながら連絡を密にして企画を進めた。

規則正しい生活及び家庭学習の習慣を形成するために、時間を意識して行動することを心がけさせ、通学合宿が終了した後も取り組んでいけるように計画した。また、中学生までに身につけた力や自分自身に不足している面を改善できるように個々に目標を立て、自宅に戻っても実行できるようにした。そのために、滝沢第二中学校の教諭を講師に招聘し、現在の中学校の様子や中学生までに身につけて欲しい力を講義していただくプログラムを組んだ。

また、人とかかわる力や集団生活のマナーを学びながら、意欲を持続させるために日替わりの「学習・交流」の時間を設定し、職員と法人ボランティアが担当した。

調査研究通して、参加小学生に対して事業前後にアンケートを実施した。また、保護者に対しては事業後にアンケートを実施し個々の変容や事業の有効性を探るよう企画した。

### (4) 広報のポイント

年度初めに各学校を訪問し、校長、副校長、教務主任等に事業の趣旨や内容の説明と広報を行った。事業1ヶ月前には5～6年生にチラシを配布した。滝沢市教育委員会や報道機関へ開催要項とチラシを送付し、本事業開催についての広報を図った。

### (5) 運営のポイント

一週間を通して決められた生活リズムと時間を意識した行動ができるように、基本的な生活習慣を身に付けることに重点を置いた活動プログラムを工夫した。また、色々な人からの影響を受けながら活動や生活できるように、2校のバランスや学年、男女を考慮して、1グループ5～6名の6班を編成した。学生のボランティアスタッフは、各班にリーダーとして配置した。また、きめ細やかな対応ができるように3班ごとに統括リーダーを置いた。(組織図参照)

各班には児童たちの活動が自発的なものになるための工夫として、毎日の活動の最後に班ごとの「ふりかえり活動」を設け、模造紙に児童たちの思いや生活の中で気づいたことを書き込ませるビーイングを取り入れ、思いや考えを見える形で積み重ねた。最終日前々日の夜には、一週間をかけて書き込まれたビーイングも参考にしながら、個人の中学生に向けての「目標づくり」を行った。目標を達成するための手立ても考えさせたが、思いつかない児童に対しては同じ班の仲間やボランティアスタッフのアドバイスを受けながら、これからの生活の中で即実践できる「目標づくり」とする活動を取り入れた。

一週間を通して班での活動が中心になることから、初日から最終日までの学習・交流の時間は、班員がまとまって行動し、協力して活動できるものを行った。コミュニケーションをとりながら楽しむ「フォトラリー」、「アドベンチャープログラム」やボランティアが企画したレクリエーション「鬼ごっこゲーム」、体力テストを基にした「身体づくり」、中学校生活を見据えた「中学校の生活についての講義」など、様々な体験活動を行いながら仲間とともに過ごした。

今回、一週間の日程の中に学習発表会の代休があった滝沢第二小学校の23名は、本施設の職場体験としてキャンプ用シュラフのクリーニング業者への搬出作業や体育館、曲り家、研修室の清掃など真剣に取り組み、働くことの一端を体験した。

健康面における配慮として、健康観察は朝と就寝前に行い、体調や排便の有無、薬の服用について聞き取りをするとともに、必要に応じて学校と連絡を取り合った。また、登下校時の通学バスにはボランティアスタッフが同乗し、児童の把握及び乗下車時の安全確保を行った。

児童の就寝後にスタッフミーティングを設定し、共有すべき内容や児童への対応に関する悩みを出し合い、その対策を話し合う場とした。その後の個々の「ふりかえり活動」も含め、短時間に効率よく実施した。

## 7 成果とその普及

前半は、集団や班を中心とした活動プログラムを組み込んだことで、参加した多くの児童たちは班のメンバーやボランティアスタッフと打ち解けることができていた。「別な小学校に友達がいなくてすごく不安だったけど、時間がたつにつれて友達も増えたので良かったです。ここで成長したことを生活に生かしていきたいと思いました。」という感想から、良好な人間関係づくりを構築することができたといえる。さらに、テレビやゲーム機、スマートフォン等、普段の生活の中で使っているメディアから1週間離れても、仲間と過ごすことに楽しみを感じられたことは大きな成果であった。

家庭学習の習慣化を形成するにおいては、時間を意識させることを心がけさせた。今回は、両小学校とも「家族ふれあい学習週間」という取組と重なったこともあり、すべての児童が前向きに学習に臨んでいた。

生活に関しては、「衣・食・住」と「言葉遣い」を意識させて取り組ませたことにより、「いつもお母さん達にやってもらっているけど一週間みんなで力を合わせてやりました。いつもいろんなことをしてくれている人に感謝したいです。」「この一週間でじぶんをみがくことができたし、自分で立てた目標を忘れずに生活しました。きそがいっぱいついて最高でした。」「私は、とても口が悪くて、ついケンカ腰になるから友達ができるか心配だったけど、言葉が悪いとリーダーが注意してくれたから大丈夫でした。」という児童の声が聞かれた。また、集団生活の向上のために行った「ふりかえり活動」はリーダー中心に話し合いをすすめて、活発な意見交換につながった。ねらいとしている、基本的な生活習慣の定着を図るための意識付けとなった。また、中学校の先生を講師として招聘したことにより、子供たちが中学生になるのだという意識を持たせられたと考える。

今回、グループワークを中心としたプログラムを行うことで生きる力の高まりが IKR 調査でも分かった。活動を通して自分の行動や発言が、他者との関わり方の大きな要素であることを実感させることができ、コミュニケーション能力の高まりも感じられた。「大学生、スタッフさんと交流し、協力し合っただけで楽しかったです。一生忘れたくないと思える思い出ができました。」との感想もあり、「中一ギャップ」解消に向けた一助になったと考える。

事業を終え、一ヶ月後に子どもの変化について保護者にアンケートを取ったところ「テンちゃん一家に参加し自信がついたと思っております。」や「楽しい思い出が出来た事で普段の生活もいきいきとなったような気がします。」などの声が届けられたことでも実施した成果を確認できた。

最後に、この長期キャンプを支えているボランティアと反省会を重ねることで、ボランティアの成長を感じることができるとともに、気づかされることも多々あることを実感できたことも成果の一つであった。

## 8 今後の課題

基本的な生活習慣を図る意味で、時間を意識して生活するように心がけさせたが、夜のプログラムに時間をかけすぎ、ふりかえりの時間の確保が難しかった。また、今年度は、新たな個人の目標づくりを取り入れたり、自分の内面の思いをキャラクターに投影して反省を書かせたりするなど、新たな取組を行ったことで、ボランティアを戸惑わせてしまった面があった。

子供たちに関しては、全体の前で自分たちの班の成長を確認する発表や個人の目標を発表する際に、原稿があるにも関わらず、伝えたいことを上手く伝えられなかったり、表現出来なかったりすることがあった。次年度は上記の課題を改善できるプログラムにできるよう運営に生かしていきたい。



職場体験の様子



中学校の先生の話聞く様子



班の目標タワーづくりの様子

【テンちゃん一家の一週間 組織図】

